

献血や募金といった活動で見かける「赤十字」。赤十字は、多くのボランティアスタッフによって支えられています。新富町には、なんと72年前の昭和23年4月から「新富町赤十字奉仕団」が活動を続けており、県内でも2番目に歴史が長いそうです。現在、この新富町赤十字奉仕団の委員長を務めているのが、壺岐利美（いきとしみ）さんです。

赤十字の活動といえば、献血や募金の呼びかけのイメージが強いですが、新富町赤十字奉仕団の取り組みはそれだけではありません。福祉施設を訪ねて利用者の話を聞く傾聴ボランティア、避難訓練への参加や災害時の炊き出し、日向新富駅の清掃、一人暮らしの高齢者のためのお弁当作りなど、多岐にわたります。

かつて役場の福祉課で働いていたことから、新富町赤十字奉仕団のおおよその活動内容は知っていたという壺岐さん。入団のきっかけは知り合いに誘われたこと

ですが、「少し

でも地域のため

に、微々たる力

でも誰かのために

なるのであれば」という気持ちで活動しているそうです。



在宅一人暮らし高齢者への弁当作り

現在52人いる新富町赤十字奉仕団のメンバーは、年代が40〜90代と幅広く、世代を超えての交流ができるのも1つの魅力。女性のメンバーが多く、活動のことが

いま新富町のこの人が気になる

#005 今月の新富人

1954年生まれ。新富町出身。平成27年3月に新富町役場を退職後、知り合いに誘われて新富町赤十字奉仕団に入団。数少ない男性団員として活動を続けており、本年度の4月より、委員長に就任。最近の楽しみは、孫の世話をすること。



新富町赤十字奉仕団委員長 壺岐利美さん



災害ボランティア運営訓練

らプライベートのことまで、さまざま話に花が咲くそうです。

一方で、男性メンバーの不足やメンバーの高齢化が問題になっていて、災害な

ど力仕事や長時間の作業が必要になった場合に、どこまで活動できるのか不安な面もあります。

「新富町赤十字奉仕団は、メンバーが無理のない範囲でフォローし合って活動しており、いい刺激を受けることも多い。興味がある方は、年齢・性別に関わらずぜひ活動に参加してもらいたいです」

新型コロナウイルス感染症の影響により、4月以降ほとんど活動ができていませんが、今後の計画はいろいろ立てているそうです。その中でも、新たに取り組んでいきたいと考えているのが、小中学校への啓蒙・交流活動。赤十字がどんな組織でどんな取り組みを行っているのか知ってもらい、活動内容に興味を持ってもらいたいといいます。

「命の大切さを知ってほしいし、人とのつながりや人助けを大事にしてほしい。そういった人のつながりの大切さを赤十字奉仕団の活動を通して伝えていければと思っています」

●新富町でご活躍されている方を編集部までお寄せください。
自薦・他薦は問いません。図総務課 ☎33・6002